

コロナ禍の

外国人労働者

日本政府は2019年4月の入管法改正により特定技能という新しい在留資格を創設して外国人労働者の受け入れ拡大に踏み切りました。技能実習生、留学生をはじめ、すでに160万人とも言われる外国人が国内で働いています。技能実習制度については低賃金や実習生の失踪などさまざまな観点から制度上の問題が指摘されています。また、労働面だけでなく、コミュニケーションの支援や社会保障などを含めた生活面での基盤整備など外国人の受け入れ環境は整っているとは言い難い現状があります。その上、コロナ禍でさらなる困難に直面する外国人が急増していますが、このままでいいのでしょうか。

当協会では、コロナ禍の外国人労働者に焦点を当てたオンライン講座を開催します。今回はNPO法人POSSE外国人労働者サポートセンターの岩橋さんからコロナ禍での労働相談から見えてくる外国人の労働環境についてお話いただきます。また、ジャーナリストの巢内さんから、技能実習制度やベトナムの技能実習生がコロナ禍でどのような状況に置かれているのかについてお話いただき、移住労働、外国人労働者を受け入れる地域社会のあり方について、ともに考えます。

日時

2020年12月12日(土) 10:00~12:00

「Zoom」によるオンライン開催

※お申込みいただいた方に
前日までに招待URLを送ります。

講師



岩橋 誠 (NPO法人POSSE外国人労働者サポートセンター)

中高7年間をアメリカで過ごす。日本帰国直後に起こったリーマンショックと「年越し派遣村」などに衝撃を受け、大学入学後、労働相談ボランティアとしてNPO法人POSSEにかかわり始める。過労死遺族やブラック企業で働く労働者の支援に関わり、2019年4月に「外国人労働サポートセンター」を発足した後は英語と日本語で、日本で働く外国人の労働相談に乗っている。ジャーナリストとして日本の実態を海外に発信している。



巢内 尚子 (ジャーナリスト)

インドネシア、フィリピン、ベトナム、日本で記者やフリーライターとして活動。2015年3月~2016年2月、ベトナム社会科学院・家族ジェンダー研究所に客員研究員として滞在し、ベトナムからの国境を超える移住労働を調査。一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了(社会学修士)。ケベック州のラルバル大学博士課程に在籍。著書『奴隷労働—ベトナム人技能実習生の実態』(花伝社、2019年)。

問合せ・申込み

申し込みフォーム
こちらから



<https://forms.gle/WhPuPxdgScbtYQEL9>



(公財)大和市国際化協会

大和市深見西1-3-17

市民活動拠点ベテルギウス北館1階

TEL: 046-265-6051

Email: pal@yamato-kokusai.or.jp